Newsletter　え～ごがく No.72　日本英語学会

2020年２月28日発行

今回の紙面から（ページと内容）

会長挨拶 1
第13回国際春季フォーラムのご案内 2
第38回大会のご案内 2
大会優秀発表賞審査結果報告 2
（Student）Workshopの企画募集 3
被災された方の会費免除のお知らせ 3
終身会員の登録申請について 3
理事会より 3
編集委員会より 5
大会運営委員会より 6
広報委員会より 7
学会賞委員会より 7
日本英語学会2019年度通常予算収支中間報告書 8
日本英語学会2019年度学生会員発表助成金収支中間報告書 9
言語系学会連合について 9
人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)について 9
事務局より 9

会長挨拶

会長　廣瀬 幸生

新しい年を迎え、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年の９月下旬から10月上旬にかけて郵送による投票で行われました会長・理事選挙では、選挙人である評議員のうち８割を超える方から投票をいただきました。その結果、次期会長として東北大学の金子義明氏が選出されました。新たな会長制度に従い、金子氏は再来年度の2021年度から２年間会長に就かれますが、来年度（2020年度）は副会長として私をサポートいただきながら、再来年度に向けた体制の準備を整えていっていただくことになります。今後、この新たな制度によって会長・事務局の引き継ぎがスムーズにいくことを期待したいと思います。同時に行われた理事選挙でも、今年度で退任される理事６名の後任が無事に決まり、来年度より就任いただきます。

今年度も５月と11月にそれぞれ国際春季フォーラムと年次大会が開催されました。国際春季フォーラムは聖心女子大学で開催され、今回は大会参加者数が150名を上回る盛会となり、優秀発表賞も１件出ましたこと、大変うれしく思っています。また、第37回年次大会は関西学院大学で開催され、今回からの新企画である特別講演をはじめ、ワークショップ、研究発表、シンポジウムにも多数の参加者を得て、活発な議論が行われました。ここでも優秀発表賞２件と佳作１件が出ましたことを非常に喜ばしく思っています。さらに、言語系学会連合との共催による公開特別シンポジウム「ことばは現実をどう捉えるか－ことばの対照研究のおもしろさ－」には、非会員の方もたくさん参加いただき、当初意図した目的をそれなりに果たすことができ、成功裏に終わりました。国際春季フォーラムも年次大会も、大会運営委員会と開催校委員の先生方の周到なご準備とご尽力によって成り立っており、この場を借りて改めて心よりお礼申し上げます。

今年度の年次大会では、*Conference Handbook*は紙印刷版と電子版の両方を作成しましたが、すでにお伝えしているように、来年度からは電子版のみの提供になります。また、*JELS*については、CD-ROM版での発行ならびに配布は昨年お届けした*JELS* 36（Revised）までとし、次に出る*JELS* 37からはPDF版を学会のウェブサイトにアップし、誰もがオープンアクセスできるようにすることになりました。これは、学会の財政難ならびに事務局の仕事量軽減への対策の一環として理事会で決定されたことであり、会員の皆様のご理解とご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

学会賞関係では、２件の著書に日本英語学会賞（著書）が、１件の論文に日本英語学会新人賞が授与されました。学会賞（著書）の受賞者はお一人が熟年研究者で、もうお一人は中堅研究者で

す。そして新人賞受賞者は、大学院生の若手研究者です。このように熟年・中堅・若手の各層から受賞者が出たことは学会全体にとって大変喜ばしいことだと言えます。

とはいえ、特に大学院生などの若手研究者については、もっと会員数が増えるように、さらに魅力のある学会にしていくことが求められています。学会活動の活性化とともに、知恵を出し合って取り組んでいかなければならない課題だと思われます。会員の皆様には、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第13回国際春季フォーラムのご案内

第13回国際春季フォーラムは次のとおり開催されます。

日時：2020年５月９日（土）・10日（日）

場所：関西大学 千里山キャンパス

（〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35）

詳細については、同封のプログラムをご覧ください。なお、今回のフォーラムも書籍展示を行う予定です。また、土曜日夕刻に開催される懇親会の参加費は2,000円です。

第38回大会のご案内

第38回大会は次のとおり開催される予定です。

日時：2020年11月７日（土）・８日（日）

場所：茨城大学 水戸キャンパス

（〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1）

会員の方は奮って研究発表にご応募ください。応募締切は**2020年４月１日（水）24時（必着）**です。応募の際は、学会ウェブサイト「研究発表応募規定」欄（http://elsj.jp/meeting-kitei/）掲載の同規定をご確認ください。また、「大会優秀発表賞」は昨年度改定が行われ、審査の対象が拡充されましたので、奮ってご応募ください（詳細は、学会ウェブサイトをご覧ください）。**なお応募規定違反の原稿が見受けられますので、規定の内容をよく読み、遵守してくださいますようお願いいたします。**そのうえで、必ず同規定指定のアドレス宛に、発表内容と研究発表応募用紙（Excelファイル）を締切り日厳守にてご送信ください。**なお、今回より投稿用のメールアドレスが、conference-toko-elsj@kaitakusha.co.jpに変わりましたので、ご注意ください。詳しくは、本ニューズレター７ページの「自動応答メールの内容を反映したアドレスの増設について」をご覧ください。**

第38回大会においても「**親と子の部屋**」を設置いたします。**詳細は、今後学会ウェブサイトや９月発行予定のニューズレターでご案内いたします。**

大会優秀発表賞審査結果報告

第37回大会では、大会優秀発表賞について、審査希望者を対象に査読段階の点数による一次審査と、大会当日の発表に対する二次審査が行われました。審査結果は12月に開催された大会運営委員会で審議され、石田崇氏（筑波大学大学院）「英語の接頭辞付き関係形容詞について」、菊池由記氏（大阪大学大学院）「*N-free X*と*N-less X*の構文形態論に基づく分析」に大会優秀発表賞を、齋藤章吾氏（東北大学大学院）「Labeling AlgorithmとCopy Deletion」に佳作を授与することが決まりました。

石田氏の発表は、事実及び先行研究に基づいて手堅く論証し、対比性によって、それらの事実を正確に記述していたところが評価されました。一方、対比性がなぜ関係形容詞の叙述用法を認可するのかという理論的な説明が欠落していて、明確化が望まれます。菊池氏の発表は、構文文法の形式化には改善の余地があるものの、構文文法の分析方法としては穏当で、分析に説得力があります。また、コーパス研究において、「共起語」に注目する調査方法は着眼点も良く面白いアプローチであると評価されました。齋藤氏の発表は、wanna縮約の問題に対するLabeling Algorithmの観点から独創的なアプローチをしている点が評価されました。ただし、先行研究に対する言及がないこと、接辞化のあとにCopy Deletionの順序づけが支持されない可能性があることが指摘されました。

国際春季フォーラムについても第９回国際春季フォーラムから優秀発表賞の審査が行われています。５月開催の第13回国際春季フォーラムの審査結果は７月中旬に学会ウェブサイト上で公表され

る予定です。

（Student）Workshopの企画募集

日本英語学会では、会員の自主的な企画・運営により、特定のテーマに関する発表と自由な討論をしていただく場として、ワークショップ／スチューデント・ワークショップ企画を例年募集しています。第38回大会では、11月７日（土）の午前９時30分から11時45分までをワークショップ／スチューデント・ワークショップにあてる予定です。

企画・運営をご希望の方は、学会ウェブサイト「秋季大会ワークショップ」欄（http://elsj.jp/workshop/）掲載のワークショップ企画募集案内をご確認のうえ、**2020年３月31日（火）24時までに必着にて**、同案内指定のアドレス宛に企画書とワークショップ応募用紙（Excelファイル）を送信してください。**なお、今回より投稿用のメールアドレスが、conference-toko-elsj@kaitakusha.co.jpに変わりましたので、ご注意ください。詳しくは、本ニューズレター７ページの「自動応答メールの内容を反映したアドレスの増設について」をご覧ください。**

被災された方の会費免除のお知らせ

昨年発生しました大雨・台風などの自然災害により被害を受けられた皆様、日本英語学会よりお見舞い申し上げます。

昨年８月以降学会ウェブサイトでご案内しておりますように、2018年度以降に国内で発生した自然災害により被害を受けられた会員の方につきましても、その災害が起こった年度、またはその翌年度の会費を免除する制度が適用されることが決まっております。**学会では特に災害は指定せず、会員ご本人の申請によって事務局で会費免除の手続きを行います。**

また、会員ご自身の被災だけでなく、会員が生計を支援している方や会員の生計を支援されている方が被災された場合も対象となります。なお、当該年度に入会される方についても、該当される方は会費を免除いたします。

詳細につきましては、学会ウェブサイトの**「各種手続き・お問い合わせ」**をご覧ください。
免除を希望される方は、上記サイトにあるファイルをダウンロードしてご記入の上、学会事務局までメールに添付してお送りください。

＊申請は随時受け付けます。
＊申請時においてその年度の会費が納入済みの場合は、次年度の会費に充当させていただきます。
＊既に申請時の年度の会費を納入されていて、特に返金をご希望される場合は、上記のファイルにその旨をご記入ください。

ご不明な点は事務局までお問い合わせください（elsj-info@kaitakusha.co.jp）。

終身会員の登録申請について

2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会員会費３万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、*EL*、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。また、すでに現在までに上記の資格を満たしている会員がいらっしゃることをふまえ、当面の経過措置として、満56歳から11年以上の会費を納めている場合には終身会員会費を減額または免除します。終身会員に関する規定等については、学会ウェブサイトのトップページにある「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。
来年度の登録申し込みは、４月１日から４月25日です。

理事会より

◇ **会長選挙と理事選挙**

一昨年の会長選挙制度の変更を受けて、昨年10月に会長選挙が行われ、金子義明氏（東北大学）が次期会長に選出されました。改定された会長選挙制度により、金子氏には2020年度に副会長を務めていただいた後、2021年度より２年間会長を務めていただく予定です。改定された会長選挙制度

につきましては一昨年９月発行のニューズレター『え～ごがくNo.69』をご覧ください（学会ウェブサイトでも見られます）。

また、会長選挙と併せて、昨年10月に理事選挙も行われました。詳しくは、「役員の異動」欄をご覧ください。

会長選挙と理事選挙は、今後隔年ごとに同時に行われることになります。

◇ 新たな「助成金」の運用開始

昨年度創設された２つの助成金である「学生会員発表助成金」と「市川三喜研究助成金」が、今年度から運用開始されました。詳細は学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 会計

2019年11月８日に開催されました理事会と評議員会において、日本英語学会2019年度収支中間報告（通常予算用と学生会員発表助成金用）が承認されました。中間報告書は本ニューズレターの８ページから９ページに掲載されておりますのでご覧ください。

◇ 役員の異動（含、会長選挙・理事選挙結果報告）

会長選挙結果

2019年度の会長選挙が９月27日告示、10月11日締め切りで実施されました。10月20日に筑波大学で、選挙管理委員である岡崎正男評議員と磯野達也評議員の立ち会いのもと開票が行われました。その結果、金子義明氏（東北大学）が次期会長に選出され、11月８日に行われた理事会で承認されました。任期は2021年４月１日から2023年３月31日までです。また、2018年度に新たに定められた会長選考規則第５条により、金子氏は2020年度と2023年度は副会長を務められます。

なお、現会長の廣瀬幸生氏は、上述のように、会長規則変更に伴う経過措置により、2021年４月１日から副会長を務められます。任期は１年間です。

理事選挙結果

2020年３月31日で任期満了となる６名の理事、杉岡洋子氏（慶應義塾大学）、高橋英光氏（北海道大学名誉教授）、西岡宣明氏（九州大学）、廣瀬幸生氏（筑波大学）、福井直樹氏（上智大学）、鷲尾龍一氏（学習院大学）が退任されます。そのため、上記の会長選挙と同時に理事選挙も実施され、会長選挙と同様に10月20日に開票が行われました。その結果、下記の６名の新理事が選出され、11月８日の理事会で承認されました。

大室剛志氏（名古屋大学）、岡崎正男氏（茨城大学）、小野尚之氏（東北大学）、加賀信広氏（筑波大学）、長谷川宏氏（専修大学）、渡辺明（東京大学）

なお、岡田禎之氏（大阪大学）、金子義明氏（東北大学）、藤田耕司氏（京都大学）、遊佐典明氏（宮城学院女子大学）、吉村あき子氏(奈良女子大学)は、理事２期目となります。

編集委員長（退任）

西岡宣明氏（九州大学）が2019年11月30日付けで退任されました。２年間、編集委員会の運営にご尽力くださり、誠にありがとうございました。

編集委員長（就任）

金子義明氏（東北大学）が2019年９月１日付けで就任されました。任期は２年間の予定でしたが、次期会長候補に選出され、2020年４月１日から副会長を務められるため、2020年３月31日までの任期となります。

大会運営委員長（退任）

松岡幹就氏（山梨大学）が2019年12月14日付けで退任されました。１年間、大会運営委員会の運営にご尽力くださり、誠にありがとうございました。

大会運営委員長（就任）

木村宣美氏（弘前大学）が2019年12月15日付けで就任されました。任期は１年間です。

広報委員長（退任）

大名力氏(名古屋大学)が一身上の都合で、

2019年11月26日付けで辞任されました。

広報委員長（就任）

江連和章氏（大妻女子大学）が2019年11月27日付けで就任されました。任期は、2021年３月31日までです。

◇ **会員数の変動について**

現在の会員数は1362名（１月21日現在）です。内訳は、学生会員45名、通常会員1138名、維持会員110名、海外会員17名、終身会員36名（顧問８名を含む）、賛助会員16団体となっております。

編集委員会より

◇ ***English Linguistics* 第36巻１号（2019年秋号）の刊行について**

EL 第36巻１号（秋号）が刊行されました。特別企画招聘論文（Invited Article）２編、Brief Article１編、Review５編が掲載されています。

◇ ***English Linguistics* 第36巻２号（2020年春号）の刊行予定について**

EL 第36巻２号（春号）は2020年３月に刊行される予定です。Article２編、Notes and Discussion１編、Review Article２編、Review３編が掲載される予定です。

◇ ***English Linguistics* 第37巻１号（2020年秋号）の応募論文について**

2019年９月20日締め切りで投稿された一般論文の総数は３編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article２編（Syntax 1, Pragmatics 1）、Brief Article１編（Cognitive Linguistics 1）でした。また、第36巻２号に投稿されて「４ヶ月書き直し」と判定され、第37巻１号に再投稿された論文の総数は３編で、Article２編（Syntax 2）、Brief Article１編（Historical Linguistics/Syntax 1）でした。

以下の表は、慫慂によるReview５編と前号より「４ヶ月書き直し」として再投稿された論文３編も含めた、第37巻１号の審査状況です（2020年１月17日現在）。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	2	0	2	0	0
BA	1	0	0	0	1
N&D	0	0	0	0	0
RA	0	0	0	0	0
Review	5	5	0	0	0
4ヶ月書き直し					
AR	2	2	0	0	0
BA	1	1	0	0	0
合計	11	8	2	0	1

◇ ***English Linguistics* 第37巻２号（2021年春号）への投稿について**

2021年３月発行予定の*EL*第37巻２号の応募締め切りは、2020年４月１日（水）24時（必着）です。

応募される方は、学会ウェブサイトに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ **2019年度*EL*論文賞について**

*EL*論文賞について、2019年度は2018年９月20日締め切りの*EL*第36巻１号（2019年９月刊行済み）と2019年４月１日締め切りの*EL*第36巻２号に投稿され、すでに採用となったAR２編とBA１編の計３編について、先ず、分野別一次審査を行いました。審査対象となった論文の分野はSyntax１編、Morphology/Semantics１編、Pragmatics１編です。総合的に審査した結果、2019年度は１次審査通過論文なしとなりました。

◇ **preprintの公開について**

*EL*への投稿原稿（preprint）を個人のウェブサイト等に掲載することに関してガイドラインが定められています。詳しい内容については、学会ウェブサイトをご覧ください。

大会運営委員会より

◇ **大会運営委員会の構成**

昨年12月より大会運営委員会の構成は次のようになりました。

（委員長）木村宣美氏

（副委員長）漆原朗子氏

（委員）五十嵐海理氏（国際春季フォーラム実行委員長）、前田雅子氏（国際春季フォーラム副実行委員長）、遠藤智子氏、眞田敬介氏、柚原一郎氏、高梨博子氏、西山淳子氏、藤川勝也氏［以上留任］茨木正志郎氏、大関洋平氏、坂本祐太氏、西口純代氏、本間猛氏［以上新任］

◇ **第38回大会シンポジウム企画について**

現在準備が進行中です。なお、第38回大会では、英語教育の問題が社会的に大きな関心を集めていることから、理事会が主導して公開特別シンポジウム「英語教育のあるべき姿を目指して：英語にかかわる研究の視点から（仮題）」の開催が計画されています。詳しい内容は『え～ごがく No. 73』でお知らせいたします。

◇ **特別講演の新設について**

大会運営委員会では、招聘・慫慂制度のあり方についての検討を重ね、招聘制度を廃止し、「特別講演」という運営委員会の推薦による講演形式の発表枠を設けることにしました。1）英語学分野またはその関連分野・隣接分野に関する内容、2）学会の会員に対して、大会に出席する動機付けや、（特に若手会員に）同じ大会で発表したいと思わせるような呼び込み効果が期待できるようなもの、3）１つの枠を60分とする単独講演（質疑応答を含めて良い）、4）査読は行わず、非会員による講演や他学会で発表済みのものでも良いとしました。なお、学位取得後・就職後の年数による制限は設けず、広義の「若手研究者」を対象とする慫慂制度を残すことにしました。

◇ ***JELS* 37について**

JELS 37は電子版のみで作成され、学会ウェブサイトに掲載されます。なお、今回の*JELS* 37より、希望者については、リポートとして、ワークショップとシンポジウムに加え、特別講演も掲載することにしました。ただし、ワークショップやシンポジウムと同様に、「論文」ではなく「報告」としての扱いとなります。また、*JELS* 投稿用の原稿サンプル等を改定し、ウェブサイト（http://elsj.jp/jels/jels-kitei/）に掲載しました。

◇ ***JELS*投稿規定の修正について**

*JELS*の巻頭に記載されている「*JELS*掲載論文の査読論文としての取り扱いについて」に関して、*JELS*投稿規定に、「*JELS*に掲載されている論文（Symposium ReportsおよびWorkshop Reportsを除く）は、発表応募時に査読を受けており、また最終稿が大会運営委員会の確認を受けているので、当学会では査読付き論文として見なしますが、あくまでプロシーディングズ論文であり、この内容を改稿し、フルペーパーとして学術誌に投稿することは妨げられません。」との付記を追加いたしました。

◇ **第37回大会の報告**

第37回大会は、2019年11月９日（土）･10日（日）の両日、関西学院大学にて開催されました。本大会では、ワークショップ４件（ワークショップ３件、スチューデント・ワークショップ１件）、特別講演３件、シンポジウム７件（公開特別シンポジウム１件、公開シンポジウム１件、シンポジウム５件）、研究発表24件（招聘３件、慫慂４件）が行われました。大会２日間で390名の参加者があり、盛会裏に終えることができました。今回も各出版社から書籍の展示をしていただき、本大会では22社の展示がありました。大会運営を支えてくださった開催校委員及び開催校協力委員の先生方、参加された会員諸氏のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただきました。誠にありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

◇ **「親と子の部屋」について**

第37回大会では「親と子の部屋」の利用がありました。今後も毎年開設する予定です。

◇ ***Conference Handbook*の電子化について**

第37回大会より*Conference Handbook*の電子化を始めました。ただし、第37回は試行期間として、従来の紙印刷版と電子版の両方を作成しましたが、**第38回大会から電子版に統一**する予定です。詳しくは、学会ウェブサイト及びニューズレター等で今後お知らせいたします。

◇ ***Conference Handbook*の電子化に伴う学生大会参加費の減額について**

第38回大会より*Conference Handbook*が電子化されることにより、学生用大会参加費を現行の2,000円から1,000円に減額することにしました。

なお、学生には、当学会の学生会員登録の申告資格と同様に、研究生・聴講生・PD・専任の勤務を持たない大学院修了者および外国の大学の日本校の学生が含まれます。

◇ ***JELS*の電子化について**

第37回大会の内容を掲載する***JELS* 37以降、*JELS*も電子版のみで作成**されることになりました。

◇ **自動応答メールの内容を反映したアドレスの増設について**

研究発表の原稿を提出する、あるいは採用決定後のやり取りをする等の多くの機会で共通のアドレス（conference-elsj@kaitakusha.co.jp）が使われています。原稿の提出とその後のやり取りにおいて、応募時には適切ですが、やり取りの際には適さない、同じ自動応答メールの内容が使われています。この点を解消するために、２種類のアドレス（応募時のアドレス（conference-toko-elsj@kaitakusha.co.jp）とやり取りをする際のアドレス（conference-elsj@kaitakusha.co.jp））を別々に設定することにいたしました。

広報委員会より

◇ ***English Linguistics*バックナンバーのオープンアクセス化について**

広報委員会では、刊行後２年以上経過した*EL*のJ-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）でのオープンアクセス化に取り組んでいます。2020年１月末日現在、*EL*第32巻２号（2015）まで公開されております。以下のURLをご参照ください。

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj

学会賞委員会より

◇ **2019年度学会賞選考結果報告**

日本英語学会賞は、学会賞（著書）、学会賞（論文）、新人賞の３部門で応募・審査を行っています。今年度の選考は、2019年度学会賞委員会（水口志乃扶委員長、加賀信広副委員長、西岡宣明編集委員会委員長、金子義明編集委員会副委員長、和田尚明事務局長）のもとに実施されました。2019年４月１日から４月15日の応募期間内に、学会賞（著書）には著書３編、2018年度*EL*論文賞受賞論文からそれぞれ学会賞（論文）に１編、新人賞に１編の応募がありました。

学会賞（著書）については５月下旬から10月上旬まで審査が行われ、学会賞（論文）と新人賞については５月下旬から８月下旬まで審査が行われました。その結果、2019年度学会賞（著書）は、外池滋生氏（元青山学院大学教授）の『ミニマリスト日英語比較統語論』（開拓社, 2019）と金谷優氏（筑波大学助教）の*Causation and Reasoning Constructions*（John Benjamins Publishing Company, 2019）に、2019年度新人賞は、林愼将氏（九州大学大学院生）の“The Derivation of Non-Restrictive Relative Clauses and Their Invisibilities”（*EL* 35：1，2018）に授与することになりました。また、2019年度学会賞（論文）については、授賞はありませんでした。選考結果は2019年11月９日（土）に開催された日本英語学会第37回大会の総会において報告され、そこで授賞式が行われました。なお、選考委員を務めていただいた方々の氏名は*EL* 37巻１号に掲載される学会賞委員会報告に記載され公表されます。

受賞作の概要と評価は以下の通りです。

◇ **学会賞（著書）受賞著書**

外池氏の著書は、ミニマリスト統語論の枠組みを踏まえ独自の理論体系を構築し、日本語ならび

に英語の諸現象を幅広く分析した点が評価されました。書式、表現等で不備はあるものの、記述力、理論構成力は高く、今後の英語学、言語学の発展に寄与すると判断され、授賞に値すると評価されました。

金谷氏の著書は、構文文法の枠組みで理由節を論じたものであり、英語および日本語の理由節の記述が優れているという点が評価されました。また、理論的にはさらに深い洞察が必要であるという指摘もありましたが、発展可能性は高いと判断され、授賞にふさわしい著作であると評価されました。

◇ **新人賞受賞論文**

林氏の論文は、併合によってTwin Peaks構造が生じるというEpstein, Kitahara and Seely（2012, 2014）の主張を非制限的関係節の構造に用いて、非制限関係節が主節の要素から非可視的であるという言語事実を説明するという興味深い分析を提案しています。新たな知見の提示という面からはやや物足りないところがあるものの、理論的な面においては高く評価でき、授賞に値すると判断されました。

日本英語学会2019年度通常予算収支中間報告書

日本英語学会2019年度学生会員発表助成金収支中間報告書

言語系学会連合について

日本英語学会は今年度（2019年度）委員長学会として運営を担当しています。12月14日に言語系学会連合意見交換会が筑波大学で開催され、40加盟学会のうち17学会が参加しました。意見交換会では、まず、今年度の学会連合役員と運営体制が確認され、2018年度の活動と決算の報告に続いて、今年度の活動と予算の中間報告があり、その後、意見交換が行われました。

今年度の活動報告では、特に、日本英語学会との共催による公開特別シンポジウム「ことばは現実をどう捉えるか－ことばの対照研究のおもしろさ－」（11月９日、関西学院大学）が盛会裏に終了した旨が報告され、参加者アンケートの回答も紹介されました。また、今年度から新たに設けられた言語系学会連合との「共催」制度（加盟学会が主催する公開イベントを学会連合との共催とすることで補助金を出す制度）について説明が行われ、来年度開催予定のイベントを対象として、12月１日から２月29日までの間、企画を募集する旨の報告がありました。意見交換会については、特に、予稿集や学会誌のPDF化・オープンアクセス化に関する各学会の現状について情報交換が行われ、その他、若手会員をどのように増やすかや、小規模学会が言語系学会連合に参加するメリットは何かなどについて意見交換が行われました。

意見交換会の議事録および資料は、以下の言語系学会連合ウェブサイトの「役員名簿・議事録」のページで公開されています。

http://www.nacos.com/gengoren/

また、加盟学会の活動予定が、日本英語学会の大会予定も含めて、「加入学会カレンダー」に掲載されていますのでご活用ください。

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）について

今年度より年会費（１万円）を支払うことになりました。また、参加学会の中から幹事学会・副幹事学会を出すことについて議論がなされています。今後の活動等については以下のサイトをご覧ください。

https://geahssoffice.wixsite.com/geahss

事務局より

◇ **会員数について**

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2020年１月21日現在の会員総数は1362名です。

◇ **会費納入のお願い**

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入してくださいますようお願いいたします。２年間滞納されますと、会則第８条第４項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

◇ **学生会員登録（継続会員）について**

2020年度に学生会員として登録（2019年度からの継続）を希望される方は、以下の要領でお申し出ください。申告期間の終了後に2020年度の会員種別を確定し、会費請求をいたします。

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意ください。特に年度末の２月、３月に学生会員として新入会された場合も、新年度には改めて申告をしていただくようお願いします。

- 申告資格：次の①もしくは②の条件を満たす会員

①大学など学校の「学生」の資格をもつ会員。

②研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者、および外国の大学の日本校の学生。

- 申告期間：**2020年４月１日～４月25日（必着）**
- 申告方法：会員番号・氏名・４月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、４月以降に学生であることを証明する以下の⑴から⑷のいずれかの書類を添付し、**事務局宛（宛先は奥付参照）に「学生会員登録希望」と必ず朱書きのうえ、郵送してください。**

⑴在学する学校の発行する在学証明書

⑵学生証のコピー

⑶進学する学校・課程の合格通知書のコピー

⑷（元）指導教員（所属明記）の署名（捺印）と証明の言葉

専任の勤務先を持たない大学院修了者は、⑷の方法により書類を提出してください。申告されたのちに変更が生じた場合や不明な点がある場合には、事務局（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にご連絡ください。

◇ **学生会員登録（新規入会）について**

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、上記の学生会員登録と同じ要領で申し込むことにより、申告期間にかかわらず、いつでも初年度から学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意ください。詳しくは、学会ウェブサイトをご確認ください。

◇ ***EL*、*JELS*への論文投稿に関するお願い**

EL、*JELS*に論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「*JELS*投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。**編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信してください。**開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

*EL*に関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文の*EL*掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記してください。

*JELS*や所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させて*EL*に投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、３人称表現をご使用ください。

◇ ***EL*掲載論文の再録やレポジトリーへの登録に関するお願い**

*EL*に掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、*EL*に掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にお知らせください。

また、各大学で「学術情報レポジトリー」や「電子アーカイブ」に*EL*に掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせください。日本英語学会では、発行後２年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意願います。

◇*JELS*掲載論文の再録・登録に関するお願い

*JELS*掲載論文についても、再録および学術レポジトリーや電子アーカイブへの登録、個人のウェブサイトへ掲載の場合には、*EL*掲載の論文と同様に、事務局（elsj-info@kaitakusha.co.jp）までお申し出ください。

*JELS*掲載論文については、発行後１年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリーなどへの掲載をお認めしています。

なお、*JELS* 37以降は電子化に移行しますので、それ以降の掲載論文については、オープンアクセスとします。したがって、*JELS* 37掲載論文については、再録および学術レポジトリーや電子アーカイブへの登録、個人のウェブサイトへ掲載の場合にいちいち事務局にお申し出いただく必要はありません。

◇ *EL*公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室で*EL*を購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。*EL*がより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

◇ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、*EL*への投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常１週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力ください。

◇ 連絡先等変更のご連絡のお願い

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、**速やかに学会支援機構にご連絡ください。**連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 終身会員の大会参加にあたってのお願い

終身会員におかれましては、大会ご参加時の受付にて、終身会員カードをご提示いただき、自ら終身会員である旨お申し出いただけますよう、お願いいたします。受付にはアルバイトの学生が多く協力してくれていますが、終身会員のお名前を存じ上げない場合が多く、特に混雑時にはなかなか配慮が行き届きません。（顧問を除く）終身会員におかれましては、大会参加費はお支払いいただけますよう、お願い申し上げます。

◇ 退任

昨年４月の新事務局発足後も引き続き、編集委員会書記としての役割を果たしてくださった下仮屋翔氏（産業医科大学）と板東美智子氏（滋賀大学）が2019年９月30日付で退任されました。学会にためにご尽力いただいたことに感謝いたします。

編集後記

今年は暖冬傾向といわれており、早くも春の便りを耳にするようになりましたが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。今年度11月に関西学院大学にて第37回大会が開催され、390名ほどの参加者をお迎えして、盛況の中無事終えることができました。これもひとえに、スムーズに大会が開催できるようにご尽力くださった開催校委員・開催校協力委員の先生方、大会運営委員の先生方、学生アルバイトの諸君、ならびに、裏方に徹してくれた事務局の諸氏のおかげです。ここに改めて感謝申し上げたいと思います。書籍展示に関しましても22社からのご出展があり、貴重な研究交流の場を与えてくださいました出版社各社にも厚くお礼申し上げます。また、第1日目に行われた懇親会には160名ほどのご参加をいただきました。ただ、事務局長の読みの甘さで懇親会開始が遅れたうえ、お料理が大幅に足りなかったという結果に陥り、ご参加いただいた皆様には大変申し訳なく思います。この場をお借りしてお詫び申し上げますとともに、次回大会では今回の反省を生かして少しでも改善できるように努めたいと思っております。

廣瀬会長のもと新事務局が始まってから10ヶ月が経ちますが、その間、持続可能な運営を目指し、少しずつ改革を進めております。前事務局から引き継いだ課題であるペーパーレス化に加え、前回のNLにも書きました事務局の仕事の軽減・簡素化などがそれですが、各委員会のご理解もあり、徐々にですが前進しております。まだまだ課題も山積しており、思わぬ問題が生じたりすることもありますが、各委員会の先生方ならびに事務局書記の皆さんの献身的な働きのおかげで、何とか運営ができております。会員の皆様におかれましては、何かとご不便をおかけし、ご不満もあるかと存じますが、持続可能な学会運営のためにも引き続きご理解を賜りますよう、お願いいたします。

第13回国際春季フォーラムは、大阪府吹田市の関西大学千里山キャンパスで行われます。広大なキャンパスの中、新緑の美しい丘陵地帯での2日間開催となります。多くの会員の皆さまのご参加をお待ちしております。（N.W.）

2020年２月28日発行
編集・発行　日本英語学会
代表者　廣瀬　幸生
発行所　日本英語学会
http://elsj.jp/
〒113-0023
東京都文京区向丘1-5-2
開拓社内
電話（03）5842-8900